

被災時の思いから 非常食キットを開発。 地域防災の意識を全国に発信

みんなの力で
復興スクラム!



非常食キットを開発した「一般社団法人かたつむり」の皆さん。
右端が主任生活支援員の吉田富美子さん、左端が大西智史施設長。

非営利型一般社団法人かたつむり（大船渡市）

「あの時、温かいご飯が食べられ
たら、どんなに慰められたら
らう」。そんな被災時の思いから、平成29年11月に災害備蓄品『逃げた先にある安心。もしもの備え』が開発されました。これを手がけたのは、大船渡市で知的障がい者の就労支援に取り組む「一般社団法人かたつむり」。発案した主任生活支援員の吉田富美子さんは「避難所では、おにぎりと水を受け取るために別々の列に並ばなければならず、被災した人も支援する人も疲弊していました。米と水を一度に受け取り、温かいご飯を口にすることができれば安心感が違ったはず」と、開発への思いを語ります。

バッグにもなる手提げ型の箱には、炊飯に必要な5アイテム、陸前高田市産「たかたのゆめ」のアルファ化米、野田村の「のだ塩」、加熱袋、スプーン、水を梱包。どんな状況下でも炊きたてのご飯を食べることができます。現在は岩手と青森の産品を使っていますが、今後は各地域の地場産品でキットを作り、「もしもの備え」を全国に広めていきたいと考えています。



1人一式のキット

米に水と塩を加え、加熱袋で温めれば、15~20分でほかほかのご飯に。1人一式のキットで、物資を受け取る側と配る側の労力を軽減します。



グッドデザイン賞

米と塩の計量やラベル貼り、梱包を担うのは、施設利用者。デザインは「北上アビリティセンター」が担当し、2017年度グッドデザイン賞を受賞。



防災体験学習

児童・生徒が防災意識を高める体験学習でも取り入れられています。実施校でのアンケートは、商品力の向上と今後の商品展開に役立てられます。

